

# 世界に戦争はいらない!ウクライナに平和を!



感謝状  
WORDS OF APPRECIATION

全日本港湾労働組合 殿

On behalf of the refugees of the world,  
we would like to express our sincere gratitude for your generous  
support to those who have been forced to flee their own land.

Your concern is a gift of hope for their future.

お寄せいただいた温かいご支援は、  
故郷を追われ困難に直面している難民の人々が、  
未来への希望をもって生きていく大きな力となります。  
ここに世界の難民の人々に代わって、  
謹んで感謝の意を表します。

2022年5月

UNHCR 駐日事務所

国連 UNHCR 協会

UNHCR Representative in Japan  
Karen Farkas

理事長  
宮内 孝久

国連難民高等弁務官事務所

## ロシアのウクライナ軍事侵略に抗議する声明

ロシアは、2022年2月21日、ウクライナ東部の親ロシア派支配地域の独立宣言を承認し、24日にはウクライナの軍事施設や主要都市への軍事侵略を開始した。度重なる警告を無視し、対話のチャンネルを放棄する形での侵略は、欧米をはじめとして国際社会と決定的に対立することとなった。すでに民間人も含む多数の死傷者が出ている。国家主権と領土を武力で侵すことは国際秩序を揺るがす蛮行であり断じて容認できない。

プーチン大統領は、北大西洋条約機構 (NATO) の拡大を恐れ、ドネツク州およびルガンスク州の親ロシア政権の独立を承認するとともに、ロシア系住民への迫害があるなどの理由で「自衛」を口実にウクライナに侵略をはじめた。

これは、この地域の紛争解決のためのミンスク合意を反故にするものであり、迫害の事実があれば、まずは国際社会へ問うべきである。ウクライナがロシアを攻撃する意図はないと繰り返し表明していた中で軍事侵略は、国際社会の理解は到底得られない。

「自衛」のために攻撃が正当化されることは、日本の岸田政権が主張している「敵基地攻撃論」にも通ずるものであり、危険な論理だ。多くの戦争は「自衛」の名の下に引き起こされてきた。それが罪のない市民にも多大な犠牲を強いることは自明である。

この間プーチン大統領は、公然と核兵器使用をほのめかす発言をし、侵略前には核兵器搭載可能な大陸間弾道ミサイルを使った軍事演習を実施するなど、核による威嚇を繰り返してきた。核兵器禁止条約が発効し、核兵器の非人道性が指摘され中でのプーチン大統領の発言は、「核兵器」を弄ぶものであり、断じて許されない。

また、ウクライナでは1986年に事故を起こしたチェルノブイリ原発を除き、4ヶ所で15基の原発が稼働しており、ロシア軍がザポリージャ原発を武力制圧したとの報道もある。それら原発が武力衝突の中で安全が確保できるのかも懸念される。核兵器の攻撃がなくても原発の存在は大きな脅威である。

福島原発事故を経験した私たちもそのことを忘れてはならない。

全港湾は、ロシア軍の軍事侵略の即時撤退と国際社会との迅速かつ緊密な対話をおこなうことを強く求める。

2022年3月9日  
全日本港湾労働組合  
第5回常任中央執行委員会



感謝状が授与されました



全港湾は3月開催の中央執行委員会にて、ウクライナ緊急支援カンパを全組合員を対象に行うことを決定し、5月12日国連 UNHCR 協会 (国連難民高等弁務官事務所・日本委員会) を訪問し、各組合員のカンパと中央本部拠出金を合わせて義援金目録を贈呈しました。国連 UNHCR 協会事務局長より「全港湾労働組合という一団体としてではなく、全国の幅広い組合員の取り組みである点に感銘を受けている。本日頂いた義援金は UNHCR 本部経由でウクライナの現地で活用させていただく」との発言がありました。



国連 UNHCR 協会事務局長 (右) へ  
義援金を贈呈する真島中央執行委員長 (左)





**我々**全港湾新潟支部は、4月25日(月)新潟駅南広場において開催された、県平和センター主催の「ロシア軍のウクライナ侵攻に対する抗議緊急集会」に20名参加をしてきました。当日は、平和センター加盟単組組合員や高校生平和大使約250名が参加し、戦争反対と早期終息を強く願いデモ行進を通じて市民に訴えました。これからも全港湾運動の基本である、反戦平和運動を広くアピールしていきます。

新潟支部 書記長 那須野智広



**NIIGATA**

**NO WAR**

**ロシア総領事館前で継続した抗議行動！**



**戦**争反対は労働組合の基本です。武力で平和は作れない、軍拡と軍事同盟の強化は戦争準備であり決して許されません。3月9日、総がかり行動主催で800名を超える集会を大阪市役所前で開催し「ロシア軍は今すぐ停戦！今すぐ撤退を！」を訴えました。今後、全国統一行動も視野に入れ抗議行動は継続していきます。

全港湾大阪支部副委員長 陣内恒治

**OSAKA**



**カ**ナダから北米材本船が七尾に入港し、全乗員がウクライナ人であり、船長(首都キーウ在住)には全港湾から1人100円をウクライナへカンパしたことを報告しました。船長は涙を浮かべながら本当にありがとうと何回もお礼を言っていました。また、急遽船員3名がとくに戦闘が激しいマリウポリの自宅に帰省するため、関空からパリ経由で帰国する計画で七尾港を後にしました。日々変化する戦闘状況のウクライナの情報を得るため、片時もスマホから手を離さず、日本の貿易のため、貨物船を安全に運航し、家族や友人がどうなっているのかわからないのに、一生懸命に船員としての任務を果たそうとする姿を見てると、なんと声をかけていいかわかりませんでした。少しでも心が安まればとの思いで、七尾支部から本船にカップヌードルを差し入れました。本船は、無事荷役を終了し次港舞鶴港にむけ出港しました。やっぱり戦争は良くない！

七尾支部 書記長 中尾哲



**NANAO**